

2020年2月18日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、基調としては緩やかな拡大を続けているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている。

輸出は、中国向けを中心に弱めの動きがみられている。設備投資は、増加している。個人消費は、良好な雇用・所得環境を背景に総じてみれば緩やかに増加している。住宅投資は、横ばい圏内で推移している。公共投資は、緩やかに増加している。こうした中で、生産は、弱めの動きがみられている。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、保護主義的な動きの帰趨とその影響、中国を始めとする新興国・資源国経済の動向、グローバルなIT関連財の需要動向、地政学的リスク、新型コロナウイルス感染症の動向とその影響、国際金融市場の動向、それらが企業や家計のマインドに与える影響などが挙げられる。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、緩やかに増加している。

輸出は、中国向けを中心に弱めの動きがみられている。

設備投資は、増加している。

個人消費は、総じてみれば緩やかに増加している。

百貨店販売額、スーパー等販売額、家電販売額は、緩やかに増加している。乗用車販売は、足もと減少している。旅行取扱額、外食売上高は、横ばい圏内の動きとなっている。

住宅投資は、横ばい圏内で推移している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、弱めの動きがみられている。

内訳をみると、電子部品・デバイスや鉄鋼・非鉄金属が弱めの動きとなっている。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状態が続いており、雇用者所得も緩やかに増加している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台後半となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金や法人預金の増加を背景に、前年比2%程度のプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に、前年比2%程度のプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上